

B-65 和服生地の被服整理に関する研究(第2報)

合繊の地直しの場合に与える影響

高知大教育 西村久子

高知女子大家政 ○寺内アヤ子

目的 前報において、和服用絹生地を用いて、通常行われている4通りの地直し処理をし、その風合的性能および縫製への影響について実験・報告した。今回は、近年絹に似た合成繊維が開発され、和服用にも普及しているのを、それと試料として前回同様の実験を試みた。従来から合成繊維の地直しとしては、ドライアイロン処理が多くなされているが、より効果的な方法を検討するために研究を行った。更に前報の絹生地との比較も行った。

方法 試料はプロミックス2種類・ポリエステル・ベンゼート・ナイロン・混紡織物としてシルクウール計6種類を用いた。地直し方法は前回同様、スチームアイロンによる方法・ドライアイロンによる方法・湯通しによる方法・専門業者による方法の4通りである。物性実験としては、収縮度・厚さ・密度・剛軟度・ドレープ性・摩擦係数・布目の歪みの測定、縫製への影響の測定法として、へらつきの明確度・針通りの難易度と調べ、更に Schlegel の方法による風合の官能テストを行った。

結果 風合上からみて、合成繊維においてもそれに適合した地直しとした方が適度の張りを生じ効果的であった。しかし、プロミックス・ベンゼートはスチームおよびドライアイロンの当て時間を誤ると布を硬化させ、また収縮も大になり、著しく風合と損傷する。縫製上からは、地直し処理をした布の方が概してへらのつき具合が鮮明でしかも針通りも良好であった。これは前報の絹生地の結果とも合致した。